

## 維新と「大阪の幸福」

大阪「選挙関連」レポート第3弾。選挙中のチラシ・新聞などを大切に保存している。どうも気になって、「大阪維新の会 大阪府知事選挙政治活動用ビラ第1号」を読み返してみた。

維新は都構想を推進させるために、脱法行為の入れ替えダブル選に臨んだはずなのに、最後に3行だけ。「府と市がまたバラバラになれば、大阪の成長は止まってしまいます。さらに発展させ、さらに暮らしやすくしていくために、行政の仕組みを変える大阪都構想についての議論を進めさせてください」と。

あとは多くの図や写真を使って「大阪は、確実に成長を続けています」「維新は大阪を成長させていきます」とピーアール。とりわけ「成長による税収アップ、身を切る改革で生まれた財源。その4割以上を、教育・福祉・医療へ徹底投資！」などと自己自慢するが、徹底したファクトチェック、検証が必要であろう。

この綺麗にレイアウトされたチラシだけを見ると、大阪府・市民はこんなふうに考えてしまうのでは。維新は大阪の成長に力を尽くし、こんなに成長したではないか。これからは大阪が成長を続けていくために、府市が一体となって活動することが大切であり、都構想の議論も必要なのでないかと。

こんなことを考えていた時、写真の東京新聞4月10日の斎藤美奈子「本音のコラム」を見つけた。これを読んで大阪府市民は、どう考えるだろうか。維新の主張とあまりに違いすぎではないか。「大阪の幸福」について、事実即して検証・評価していきたい。

**本音のコラム**

二〇一二年から二年に一度、日本総研が発表する四十七都道府県の「幸福度ランキング」。最新の「一八年版」では、一位が福井県、二位が東京都だった。ちなみに三位は長野、四位は石川、五位は富山で、この上位五都県はほぼ不動である。

だけど、いまはその話ではなく大阪府についてである。こちらの順位は四十三位。下から五番目だ。大阪府は毎回このあたりで低迷している。また、政令指定都市二十市の中で、大阪市は最下位の二十位である（一位は浜松市）。

幸福度ランキングとは人口増加率、一人あたり県民所得などの基本指標

**大阪の幸福**

斎藤美奈子

に健康、文化、仕事、生活、教育の五分野のデータを加えて算出した暮らしやすさの指標である。これがすべてとは思われないし、首都東京が何かと有利なこともわかっていいる。しかしはじめてこのランキングを見たときにはショックを受けた。同じ大都市なのに東京と大阪のこの差は何？

大阪が下位に低迷している理由は、完全失業率の高さや正規雇用率の低さといった雇用関係、さらに健康、教育関係の問題が関係している。大阪都構想を実現させれば、それが解消するのだろうか。あるいは大阪万博やカジノ誘致で問題が解決する？ それより目の前の課題が先決じゃないかと思ってしまう。五輪で浮かれる東京もいえた義理じゃないけど。

(文芸評論家)

(2019年4月16日)